

フィリピン研修に参加して

経済学部 1 回生

フィリピン研修に参加して、本当に貴重な経験ができました。特に、子供たちと一緒に遊んだ 3 日間は僕の人生に大きな影響を与えました。

僕は昔から途上国に興味があり、「途上国の子供たちを笑顔にしたい、楽しませたい。」とっていました。その思いがついに叶えられると思って、今回この研修への参加を決めました。

実際現地に行ってみると、そこにはたくさんの笑顔がありました。どの笑顔も可愛くて、純粹で、輝いていました。少し安心しました。しかし、現地の日本人スタッフから子供たちの家庭状況やバックグラウンドを聞いたとき、驚きと悲しみを隠すことができませんでした。でも、一緒に遊んでいる時、子供たちは辛い表情を一切せず、いつも笑っていて、楽しんでいました。そんな笑顔を見ていると、自然と自分も笑っていて、いつの間にか一緒に楽しんでいました。自分がその子の家庭環境を変えることはできないから、せめて一緒にいる時間だけでもその子にとって忘れられないような楽しい時間にしてあげたいと思いました。その時間は、自分にとっても忘れられない時間となっていました。「子供たちを笑顔にしたい、楽しませたい。」という僕の思いは叶ったかもしれません。しかし、それよりも僕が笑顔になって、楽しんで、たくさんの元気をもらっていました。実際、スタッフや先生が撮ってくれた写真を見ても、いつも僕は子供たちの笑顔に囲まれ、幸せな顔をしていました。

今回、途上国で短期間生活をして、途上国の人々の暮らしというのは日本での暮らしと大きく違い、たくさんの衝撃を得ました。そのたびに、日本の快適さや便利さを改めて実感しました。しかし、「日本人は道具なしで生きていけない。そういった人間になってきている。」と現地のスタッフから聞き、日本人は快適さや便利さを得た代わりに、人間が本来持っている、生きていくうえで必要な能力を少しずつ失っていつている気がしました。フィリピンの子供たちは、その失った何かを僕たちに教えてくれた気がします。

日本に戻ってきてから、毎日子供たちのことを考えています。子供たちのキラキラした目や優しい笑顔、「マシグラ！マシグラ！」と僕を呼ぶ声など、どれも頭から離れません。そのたび、寂しい気持ちになります。できることなら、今すぐにでも会って、手を繋いだり、抱っこをしたり、鬼ごっこをしたり、また一緒にゲラゲラ笑いたいです。最終日に子供たちに「また戻ってくる！」と約束をしました。その約束通り、もう一度 WISHHOUSE に行つて、子供たちに会いに行きたいです。

最後に、今回の研修は、自分の将来を真剣に考えさせられる貴重な機会となりました。短期間でしたが、途上国の現場で働くということというのがどのようなものか少し知ることができたような気がします。現場には厳しい現実がたくさんあるだろうけど、途上国の子供たちに何か影響を与えられるような人になりたいと強く思いました。そのためにも、日本で専門的な知識をつけ、現地のことをもっと勉強する必要があると思いました。